

二松學舎大学人文学会
第102回大会

2010年11月27日(土)

13:00~/九段校舎1号館



〈研究発表〉 13:00~14:30

国文学 401教室

小川未明「眠い町」論
——大正三年の文壇・メディア状況の中で——

深瀬麻衣(国文学科4年)

恒川光太郎「風の古道」研究
——“ホラー小説”とトポス分析に関する一考察——

坂井祐輔(国文学科4年)

中国学 403教室

荻生徂徠における政治観

孟峰(博士後期課程2年)

明治初期の司法制度と三島中洲の司法省における活動

下村泰三(博士後期課程1年)

〈講演〉 15:00~16:30 401教室

21世紀に読む夏目漱石

——韓国併合と大逆事件100年の中で——

小森陽一(東京大学大学院教授)



こもりよういち 1953年生まれ。北海道大学大学院文学研究科博士課程修了。成城大学文芸学部助教授、東京大学教養学部助教授を経て、現在東京大学大学院総合文化研究科教授。専門は日本近代文学。テキスト論、カルチュラル・スタディーズ、ポスト・コロニアリズムによる作品読解によって、二葉亭四迷・夏目漱石・宮沢賢治・横光利一・村上春樹ほかの作家像を大きく書き換え、研究の地平を切り開いてきた。『漱石研究』(翰林書房)を石原千秋氏と共同編集。主要著書に『構造としての語り』(新曜社、1988年)・『漱石を読みなおす』(ちくま新書、1995年)・『最新宮沢賢治講義』(朝日選書、1996年)・『〈ゆらぎ〉の日本文学』(NHKブックス、1998年)・『小説と批評』(世織書房、1999年)・『ポストコロニアル』(岩波書店、2001年)・『村上春樹論』(平凡社新書、2006年)・『漱石論——21世紀を生き抜くために』(岩波書店、2010年)などがある。現在九条の会事務局長として、護憲の運動にも精力的に取り組んでいる。

〈総会〉 16:40~17:10 401教室

二松學舎大学人文学会事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16/03-5962-3304/nishojinbun@gmail.com